令和４年度第３回狛江市教育委員会の自己点検及び評価に関する審査委員会会議録

１　日　時　　令和４年12月22日（木）午後７時～８時10分

２　場　所　　狛江市役所４階　特別会議室

３　出席者　　委 員 長　押尾　賢一　（学識経験者）
　　副委員長　渡辺　秀貴　（学職経験者）
　　委　　員　惣川　ひさえ（市民委員）
　　委　　員　氏家　嘉代　（市民委員）
　事務局　　植木　崇晴　（学校教育課長）　※担当課も兼ねる。
　　佐々木　淳樹（学校教育課教育庶務係長）　※担当課も兼ねる。
　　藤田　真衣（学校教育課教育庶務係）
　　三角　紳太郎（学校教育課教育庶務係）
　担当課　　石谷　清隆（地域学校連携支援マネージャー）
　　鎌谷　京子（社会教育課長）
　　瀧川　直樹（社会教育課長補佐）

４　欠席者　　なし

５　傍聴者　　１名

６　議　事
（１）令和４年度（令和３年度実施事業）再評価について②
　　担当部署：学校教育課、社会教育課
（２）その他

７　会議概要

委員長　　これより、令和４年度第３回教育委員会自己点検及び評価に関する審査委員会を開催する。
　まずは事務局から、本日の資料の確認をお願いする。

事務局　　資料は、事前に送付した資料が全てである。次第、狛江市教育委員会の自己点検及び評価報告書（2-2-2抜粋）、資料１「コミュニティ・スクールと地

域学校協働活動の一体的推進（所報たまじむR3.9.10抜粋）」、資料２「コミュニティ・スクールの導入について」、資料３「コミュニティ・スクール導入に関する説明会用PP」、資料４「コミュニティ・スクール導入に関する教育長メッセージ及び説明動画の公開について」、資料５「コミュニティ・スクール通信№1-6、学校だより掲載依頼」、ここまでが学校教育課説明で用いる資料である。以降、社会教育課説明で用いる資料として、資料６「狛江市地域学校協働活動推進事業概要」、資料７「令和３年度地域学校協働活動報告」、資料８「狛江市地域学校協働活動推進事業メニュー（各校実施）」、資料９「しごと場訪問動画（映像制作ボランティアリーフレット）」である。

本日は担当部署として、社会教育課より、鎌谷社会教育課長、瀧川社会教育課長補佐にお越しいただいている。

（鎌谷社会教育課長　挨拶）

（瀧川社会教育課長補佐　挨拶）

また、学校教育課も担当部署となっており、植木学校教育課長、佐々木学校教育課教育庶務係長、石谷地域学校連携支援マネージャーで後ほど説明させていただく。

（植木学校教育課長　挨拶）

（佐々木学校教育課教育庶務係長　挨拶）

（石谷地域学校連携支援マネージャー　挨拶）

委員長　　資料に不足等なければ、次第に従い、議事を進める。

次第１「令和４年度（令和３年度実施事業）再評価について②」について審議する。

本日は、「2-2-2 地域の願いや子どもたちの声を生かした学校経営を推進します。」の担当部署である学校教育課、社会教育課にお越しいただいている。

それでは両課より、昨年度の取組結果等、事業内容の説明をお願いする。なお、質問・意見は両課説明終了後に一括して行うこととしたい。

担当課　　学校教育課長、学校教育課教育庶務係長、地域学校連携支援マネージャーより概要説明

（資料１～資料５に基づき説明）

社会教育課長、社会教育課長補佐より概要説明

（資料６～資料９に基づき説明）

委員長　　それでは、この項目について質問・意見はあるか。

惣川委員　　石谷先生が世田谷区のコミュニティ・スクールの立上げに関わってきたと伺っている。当時の問題点や、良かった点を教えていただきたい。また、提案として、地域学校協働活動という名称が難しいと思うので、覚えやすい愛称をつけた方が良いのではないか。

石谷マネージャー　私は世田谷区で、教諭、副校長及び校長の３つの立場からコミュニティ・スクールに関わってきた。副校長のとき、世田谷区にコミュニティ・スクールを実験的に導入するパイロット校に関わり、地域と学校が一体化していくように尽力してきた。その中で、教育の質が向上していくことを実感した。世田谷区は小学校を４期に分け、コミュニティ・スクールを立ち上げ、校長のときに最後の学校の立上げに関わった。

これらの経験から、コミュニティ・スクールは公立学校のあるべき姿ではないかと思っている。私立学校は、キリスト教を広げていく、農業を広めていく等の建学の精神に基づき成立しており、教職員、児童・生徒、そして保護者もその精神を共有している。地域が学校を支える仕組みは江戸時代からあり、この仕組みを行政の形に作り変えていくのがコミュニティ・スクールだと改めて感じた。地域が学校を支えるということは、私立学校にはできないことであり、全国に広めていくべきだと感じた。

狛江市のコミュニティ・スクールは学校ごとではなく、中学校区を基本とするゾーンごとで進めることで小中連携を目指している。これは先進的な三鷹市方式を参考にして、狛江市独自の仕組みを考えたものであり、先進的な事例から良い部分を取り入れていけば、狛江市でより良い仕組みを構築できると思っている。

惣川委員　　本審査委員会に携わってから、常に地域と学校の連携を熱望しているため、コミュニティ・スクールの導入が決定したとき、とても感激した。石谷先生のような実績のある方が狛江に来てくださり、本当に心強い。

氏家委員　　各ゾーンの委員は18人以内となっているが、保護者と地域住民はそれぞれ何名で構成されているのか、また、ゾーンによって委員の構成に違いはあるのかを教えていただきたい。

教育庶務係長　　委員18人の中に、校長と社会教育課の地域学校協働活動の地域コーディネーターが必ず入っている。例えば、一中、一小及び緑野小の一中ゾーンの場合、校長３人と地域コーディネーター３人以外の12人は、地域住民や保護者

として、例えばPTA会長、民生委員・児童委員や町会自治会長等の皆さん¥¥で構成されている。

氏家委員　私も地域学校協働活動という名称は覚えにくく、より身近な名称が良いと思っている。公式チャンネルに様々な内容があり、特に消防署の動画は完成度が高く再生数も多かった。保護者が作成しているのか。

社会教育課長補佐　作成メンバーのうち、保護者は約半分で、残りの半分も市民の方である。

氏家委員　現時点の公式チャンネル登録数が3,000人台であり、もっと登録していただけたら良いと思う。せっかく良い内容なので。

社会教育課長　最初の２つの動画はプロにお願いして作成したものである。農家の動画と狛江消防署の動画はほとんど経験のないボランティアの方が作成したものであり、狛江市の小学生がイラストとナレーションを担当してくださった。地域ボランティアは、大人だけではなく、子どもの力も借りている。

副委員長　狛江市のコミュニティ・スクールは国から指定された事業だから仕方なく実施するという文脈ではなく、社会のニーズに対応するために経験者が加わり、狛江市らしい体制を作っていくという文脈で進められているように思う。

ネーミングについては、私も関係者でありながら、事業名と組織は構造的に分かりにくいと思っている。保護者が理解できるような見せ方も大事だと思うため、狛江市独自の取組みを進めていく過程で親しみやすい狛江市らしいネーミングになると良い。

新しい事業は勢いよく始まり、10年経つと形骸化してしまうことが多い。公立学校は地域に根差して成立している。地域の願いの下に持続可能なものが組み立てられていくことで、形骸化させることのないよう努めていただきたい。これまでの事業を抱えながら新しい事業を立ち上げるため、学校も教育委員会も業務過多になりがちとなる。業務量のバランスについて、どのように考えているか伺いたい。

ゾーンの仕組みは地域に合っていると思う。一方で、例えば避難所運営協議会があり、育成委員会も中学校区で展開されている。同じ方々が各会議に集まり、構成メンバーが重複している会議もある。この方々が高齢化していく中、後任を探すのが難しいと感じる。

また、社会に開かれた教育課程やカリキュラムマネジメントという言葉が出てきたが、教育課程自体が形骸化していないだろうか。形骸化しているも

のを根拠にした事業展開は危ういと思う。学校は毎年教育課程を編成するが、管理職と教務主任が中心となり、他の教員に十分理解されていないのではないかと考えるが、どのように捉えているか。

教育庶務係長　勢いよく始まった後の形骸化だが、実際に先行して導入している自治体において、学校によって学校運営協議会の盛り上がりに温度差がある等の事例を伺っている。狛江市では、石谷マネージャーが頻繁に校長等、学校とコミュニケーションを取り、時には委員長との打合せにも同席し、きめ細かくサポートしてくれている。４つのゾーンが同様に盛り上がり、温度差が生じないよう、支援していきたい。

学校にとっては、新しい仕組みの導入に伴う負担感のイメージもあるかと思う。コミュニティ・スクール導入の初期は、会議やその準備等で主幹教諭と副校長を中心に業務が増えるが、軌道に乗れば、地域の方も学校運営に参加することで、学校の負担が逆に軽減されることを丁寧に説明しながら、協力をいただいている。

また、狛江市に育成委員会や避難所運営協議会等、地域の方に参加していただいている会議体があり、それらの会議体の核となる方に学校運営協議会に入っていただいている実態はある。学校運営協議会は、学校運営に地域の方の声を取り入れるという役割をしっかり果たせるよう、他の会議体と差別化を図らなければならない。

その中で、学校運営協議会の委員の任期は１年としている。１年とした理由は、選考自治体の例を参考に、複数年としてしまうと負担感を覚えやすいのではと考えた部分もある。しかしながら、委員の大半が１年ごとに変わると継続性が失われてしまう可能性もあるため、更新できることとしている。新陳代謝が図られながら、学校運営協議会としての継続性を維持できれば良いと考えている。

石谷マネージャー　教育課程について、学校教育課、社会教育課と指導室が連携して取り組んでいかなければならない。また、それぞれの地域性を踏まえてどういう学校経営をしていくのかというカリキュラムも考えなければならない。幸いに委員の方は、市域の狭い狛江市においても地域性があることを理解してくださっている。４つのゾーンがそれぞれの特色を活かしながら交流して、スパイラルでグレードアップしていくことを期待している。

学校教育課長　私たちもコミュニティ・スクールは数年後に形骸化してしまうことを一番懸念している。そうならないように、ゾーンごとに独自に行いながらも、互

いに切磋琢磨するような仕組みを検討する必要があると思っている。

委員長　　中学校区ごとにコミュニティ・スクールを導入するのは、狛江の特色だと思っている。学校ごとに取り組むのは学校の負担が大きく、学校運営協議会も雑談で終わってしまうことになりやすい。中学校区で一つのゾーンとして取り組むことは効率的であり、温度差もある程度平準化できると考える。

１つの提案として、各学校の欲しい教材をヒアリングし、教材と関連づけて社会教育課が作成した動画のようなものを多く作成できれば良いと思う。教材リストを作り、各学校の必要な教員がそこにアクセスして子どもたちに配信する。また、子どもたちが夏休みの自由研究等で調べものをしたいとき、そこにアクセスして活用する。教材を作る時間を減らせることで、教員に時間の余裕が生まれる。特に担当学級や教科のことで精一杯の若手教員が欲しい教材の作成を地域学校協働本部に依頼できると良い。そうすることで、地域の方も先生方のニーズを把握でき、非常に有効である。

このような仕組みを作ることで、地域学校協働活動や学校運営協議会が教員にも認知され、教員の負担が軽減されるとともに、子どもたちには良質な教材が提供される。そして、保護者も活動を理解しやすくなるのではないか。

社会教育課長補佐　　例えば、市で作成している社会科副読本「わたしたちの狛江市」に消防署の動画を連動させて授業で利用していただく等、教員の負担を軽減するために授業で活用していただけるような形で取り組んでいきたい。

委員長　　日頃の授業の中で活用できる15分から20分のコンパクトな教材を作成する方が教員の負担軽減に有効かもしれない。教員が狛江市の良さを実感でき、他の自治体に異動しても、狛江市の良い噂を広めてくれると思う。

社会教育課長　　地域学校協働活動の地域コーディネーターの活動も各学校によって温度差が出てきている。各学校に配置が完了したのは令和３年10月であり、それ以前からモデル校として配置していた学校は既に体系化してきている。各学校の活動が互いに見えるようにするため、今年度、各学校の地域コーディネーター、本部の統括コーディネーター、そして本部でLINEグループを作成し、情報交換をしている。例えば、学校から人材を探して欲しいという依頼がある場合等、情報共有をしている。また、校長や副校長を通さずに、教員に地域コーディネーターの連絡先を教えている学校もある。実際にその学校の担任から地域コーディネーターに昔の暮らしを教えてくれる人材を探して欲しいという依頼があった。それを受けて地域コーディネーターが社会教育課に

相談し、文化財担当が授業を行った。それぞれの学校の教員と地域コーディネーターの信頼関係がこの事業の成功に関わっていると思っているため、今後、各学校の良い事例は他の学校にも波及できるような形で取り組んでいきたい。

惣川委員　　トップダウンの会議は形骸化しやすい。保護者が話し合えるような形が良いのではないかと思う。私自身の子育ての経験から、年や学校が異なる保護者と知り合うことが必要だと感じている。

また、私はボランティアをやっており、そこでごみ減量のYouTubeチャンネルに出ている人形を作った。制作リストに名前が出ているのを見たとき、とても嬉しく感じた。幸いに狛江市には映像制作の人材が多く、その方々が子どものためや、子どもの友達のためであれば、ボランティアに参加してくださるのではないかと思う。保護者が一生懸命協力してきたことは必ず次につながると思う。

氏家委員　　私は狛江第五小学校の放課後クラブで勤務している。放課後クラブを利用する家庭の保護者が忙しいため、例えば、子どもたちが授業と連携した動画を家で見ながら宿題をしている間に、保護者は食事の用意ができると、保護者の負担も軽減される。保護者が助かるという実感が持てれば、自分も協力したいと思う方が現れるのではないかと思う。

副委員長　　今回の評価はＢになっているが、どうなれば、A評価になるのかについて、伺いたい。

教育庶務係長　　コミュニティ・スクールは令和３年度に立上げのための制度設計をし、令和４年４月１日に全てのゾーンで導入を完了している。そのため、令和４年度をコミュニティ・スクール元年と呼び、学校と一緒に取組みを模索している段階にある。第３期狛江市教育振興基本計画は令和２年度から令和６年度までの計画であり、その計画の到達目標を意識した上での評価であり、皆さんからいただいた提案を踏まえながら、A評価になるよう取り組んでいきたい。

委員長　　他に意見等あるか。なければこれで担当課への質疑を終了する。

次に、「（２）その他」について、事務局から次回の日程の確認をお願いする。

事務局　　次回の第４回は、年明け２月中の開催を予定している。後日改めて日程調整させていただく。

委員長　　事務局の説明について、質問や意見等があればお願いする。

（なし）

委員長　　特になければ、これにて令和４年度第３回狛江市教育委員会の自己点検及び評価に関する審査委員会を終了する。